2011.1 THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT 第27号 2011.1 THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT 2011.1 THE TOHOKU CHAMBER 2011.1 T

カーボンオフセット・カーボンフットプリント(CFP)事業

平成22年11月19日(金) 「青森化学工学懇話会」(八戸工業高等専門学校3F合併教室)において、猪股代表理事による低炭素・持続可能な社会構築に向けた「カーボンオフセット・カーボンフットプリント」の講演と高田寿哉による「みちのくEMSの構築・運用で求められる環境目的・目標の数値化」についての事例紹介を行いました。続いて12月4日(土)には、「INS冬季講演会&ファミリーパーティー」(岩手大学工学部テクノホール)において「カーボンオフセットとは?カーボンフットプリントとは?」と題してみちのくEMS評価

員・審査員の菅山洋子氏が講演 をしました。

CO2削減は今や企業のあら ゆる部門で求められており、人 類の最大の課題でもあります。 参加された方はメモをとるなど 熱心に聞き入っていました。





みちのくEMS石巻セミナー開催のお知らせ

おかげさまで新規の構築申込件数並びに認証登録件数が着実に増え順調に推移しております。事業上の環境配慮活動で一番重要な点は本来事業の環境経営の継続的改善に繋がることを目指すことであり、それを実現したものが「みちのくEMS」です。

システムの構築・運用は環境保全だけではなく従業員の意識改革・環境汚染のリスク回避に役立つなど、「会社にとって良いこと」は働く側の従業員のモチベーションアップにも繋がります。事務局として関係各位の連携を深め、さらに多くの事業所様の新規獲得に邁進してまいりますので皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。(平成22年11月末現在 平成22年度新規クライアント数46社、全構築事業者数227社、内認証登録152社)

石巻市共催で「みちのくEMS石巻セミナー」を開催します。システムの概要説明と認証取得事業者である(株)瀬崎組様から事例紹介の講演を頂く予定です。ぜひご参加ください。

●日 時: 平成23年1月19日(水) 13:30~15:30【2h】

●場 所: 石巻市役所本庁舎3階 多目的ルーム 宮城県石巻市穀町14番1号

●参加費:無料

参加希望の方は、メールまたはFAXにて所属団体名、参加する方の役職、氏名を記載の上、お知らせください。

メールアドレス: m-ems@kk-tohoku.or.jp FAX 022-375-7797



みやぎグリーン購入ネットワーク セミナー参加者募集!

「カーボンフットプリント理解促進のための消費者向けワークショップ」 〜新しいライフスタイル CO2を見ながら"お買いもの"〜

●日 時:平成23年1月24日(月)13:30~15:30

●会 場:パレス宮城野 けやきの間 ●定 員:60名 ●参加費:無料

●申 込:http://www.miyagigpn.net

「伊達なエコホテル・旅館フォーラム」

●日 時: 平成23年2月15日(火) 13:00~15:20

●会 場:ホテルメトロポリタン仙台 3F曙・西

●参加費:無料

【お問い合わせ先】 電話022-218-5451

「NPO法人環境会議所東北との関わり」

NPO法人環境会議所東北 理事協業組合仙台清掃公社 代表理事 渡邉 浩一

私にとって、NPO法人環境会議所東北(以下KKTと称)との関わりは長く、KKT設立の2年程前に遡ります。その頃、山岡専務理事が初代KKT代表の天明先生と共に「天明サロン」という市民の環境啓蒙活動を行っており、それに参加させて頂いたり、私が所 ^{渡邊 浩一氏}属していた環境技術の開発を行う協同組合ネプロ(顧問が第2代目代表の三浦教授)の実験教室に、山岡さんをはじめ「天明サロン」のメンバーが参加したり、といった具合でした。「地域社会環境の向上」を目指すには市民活動だけでは限界があり、企業を巻き込んだ環境活動を行うことの必要性から、KKTの発足に至った訳ですが、発足当時は会員企業として参加しました。

その後、KKTの会員として、ISOやEMS(LCA含)について研修などを受け、地方版のEMSの必要性を感じていたおりに、KKTがその先鞭を切る 役割になれることを知り、何かお役に立てればと思い、理事就任を引き受けた次第です。

現在、KKTが「みちのくEMS」や「グリーン購入NW」の事務局を拝命し、多少なりとも地域環境に貢献しておりますが、此処に辿り着くまでの山岡専務をはじめ、事務局の職員の熱意と行動力には、誠に感謝致し、脱帽の思いです。今後も執行部の一員として共に歩んで参ります。

クリスマスパーティ2010

毎年恒例のクリスマスパーティは、定禅寺通り光のページェントを窓越 しにした東龍門において12月10日、会員、みちのくEMS構築事業者、みや

ぎGPN会員ら総勢48名の参加で盛 大に開催しました。竹本徳子東北大 学特任教授の乾杯の挨拶の後、1社 1名の自己紹介で和やかに交流がは かられ、豪華景品が当たるビンゴ大 会でさらに盛り上がりました。



新入会員をご紹介いたします。(敬称略) 2010.12月現在 会員数 86

●(株)エス・ブイ・シー http://www.sv-c.jp

●(株)建築工房零 http://www.zerocraft.com

●(株)東洋環境開発

http://www.e-tokan.com

発行·編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL.022-218-0761 FAX.022-375-7797 E-mail kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp URL http://www.kk-tohoku.or.jp



THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT UNDOWN THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT UN

今月の メニュー

- ●「エコプロダクツ東北 2010」開催終了
- ●第10回 環境甲子園
- ●コラム ― 野池 達也 氏
- ●環境会議所東北会員紹介
- ●新港リサイクル株式会社
- ●富士ゼロックス宮城株式会社
- ●株式会社ユーメディア
- ●カーボンオフセット・カーボンフット プリント(CFP)事業
- ●みちのくEMS
- ●みやぎグリーン購入ネットワーク
- ●コラム ― 渡邉 浩一 氏
- ●新入会員紹介

2011.1 N0.27

謹賀新年

「エコプロダクツ東北2010」開催終了

環境展示会「エコプロダクツ東北2010」は、平成22年10月14日(木)~16日(土)夢メッセみやぎにおいて開催しました。環境メッセから通産して13回目の開催となり、出展者は104社、168小間、来場者数は10,290人でした。従来のエコプロダクツ、新エネルギー、省エネルギー、ソリューションに加えて、環境省の「チャレンジ25キャンペーン」の一環として仙台、札幌、北九州で開催される環境展示会「チャレンジ25地域展示会」を展開し、CO2削減に取り組む企業やNPO、自治体の取り組みを紹介するとともに、来場者に「チャレンジ25宣言」をしてもらいました。また、宮城県内の地産地消と安心安全である農産物や加工品の産直物産コーナーも設置しました。



出展者によるエコステージでのプレゼンテーションの他、「廃棄物学会東北支部第3

回大会」の研究発表会、気象予報士・衆議院議員斎藤やすのり氏による「フロン・コントロールと地球環境問題」のトークセッションを開催し、訪れた 方々は熱心に聞き入っていました。

会議棟においては、専門家講師を招いて「燃料電池セミナー」「見える化セミナー」「東北地域低炭素社会促進セミナー」の開催、フィリピン・マニラ 近郊の巨大ゴミ捨て場付近で暮らす人々にカメラを向けたドキュメンタリー映画「BASURA・バスーラ」の上映会を行いました。

環境科学教室は多賀城市、仙台市、七ヶ浜町の小学生624名が学校単位で6教室に参加し、学校では学ぶことの少ない分野の体験学習に意欲的に取り組んでいた姿が目立ちました。16日(土)は当日参加も可能とし、小学生の親子連れ63名が参加しました。また、宮城県が主催の「環境日記」合同発表会とエコキッズ探検隊の企画に協力し、登米市、石巻市から230余名の小学生の参加があり、クイズラリーをしながら出展者のブースを興味深く見学して学んでいる姿が大勢見られました。第10回を迎えた環境甲子園は入賞校によるプレゼンテーションを実施し、研究過程等や研究の成果について詳しく説明がありました。小学生を対象にした「環境標語大賞」には、家族での参加が多数あり大変喜ばしい受賞式となりました。



会場の様子

3日間で1万人余の皆様にご来場いただきましたが、出展者数の減少により、広告宣伝に費用を十分にかけられなかったことや、仙台市内でも多くのイベントが開催されたこと、秋の学校行事、大学祭等が重なったことが原因で入場者数も昨年より減少しました。

来場者からは大変面白く勉強になった、この開催についてもっと 宣伝してほしい、という意見をいただきました。出展者からは、出展 者同士の交流と来場者の反応が面白かったが、マンネリ化してし まったのか、新鮮味がなくなってしまったのか、業者の専門性と一 般の人々の間に乖離が生じているのではないか、との意見や開催 曜日、時期の変更などの要望がありました。このことは真摯に受け 止め、次年度開催に向けより良き方向へ進めてまいります。 2011.1 THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT \$275

環境甲子園へ

環境甲子園表彰式

第10回 環境甲子園

第10回目を迎えた環境甲子園は東北6県すべてから応募がありました。中にはすぐ商品化できるような作品があり、年々レベルが向上しています。必要とされるものつくりは、研究や作品つくりを通しあらゆる角度から検証していくことで、高



校時代に培われた研究成果などを通し就職する際必ずや役に立つことでしょう。受賞した作品は優秀賞が2作。特別奨励賞が3作でした。

優秀賞の岩手県立盛岡農業高等学校の「ペットボトル苗を使った広葉樹林の育成」は、ペットボトルの容器を活用し苗を育てるというペットボトルから始まる未来への森つくりです。これは苗の発育も良く根が容器に沿って伸びるので、植樹の際広く穴を掘らず細長い穴で済み、苗の根付が良い利点があり、急傾斜急勾配な場所に植樹にうってつけとのことです。優秀賞のもう一作品は、山形県立置賜農業高等学校の「生物資源の地域循環システムの完成をめざして」です。

環境会議所東北が東北にある高校生を対象にした「環境甲子園」は今後も継続していきますので、会員のみなさまのご支援もよろしくお願いします。

コラム

日本最大規模の メタン発酵施設 仙台に完成間近!



日本大学大学院総合科学研究科環境科学専攻教授 野池 達也

本年ほど夏の暑さがきびしく、冬の寒さが早く訪れ、集中豪雨の災害が山口市や奄美大島を襲い、地球温暖化現象の顕れである気候変動を実感した年はありませんでした。世界の平均CO2は、年々増大し続け最新のデータでは、386ppmに達したとの報道もありました。私達は世界の民として、可能な限りの手段を通じて、低炭素社会に向けてCO2の削減に務める義務に立たされております。有限の化石資源を、次世代においても未永く活用してゆくためには、化石資源への依存をできる限り低減してゆかねばなりません。カーボンニュートラルの特性を有し、枯渇することのないバイオマスの利活用は、化石資源由来のCO2の発生量を削減できます。私は、メタン発酵によるバイオガスエネルギーの生産によるCO2の削減を目指して参りました。EU諸国・中国・韓国においては、メタン発酵はますます普及しております。

この度、仙台においても、生ごみ160t/日という日本最大規模のメタン発酵施設が泉ヶ岳の近くに、平成23年3月までに誕生するという朗報があります。宮城県内の廃棄物処理の担い手として貢献されてこられた(株)新興により、泉パークタウン内に建設中であります。メタン発酵槽システムは、ドイツのLIPP社から輸入され、「新興バイオアーク」の名称があります。主に、仙台市内の食品工場からの生ごみが対象物とされ、バイオガスは電力に、発酵液の脱水残渣は堆肥化され農業利用されます。また、脱水ろ液は、仙台市公共下水道に排出されます。仙台では初めての、しかも日本最大の生ごみのメタン発酵が実現することは、大変喜ばしく、一日も早く仙台で開始されることを心待ちにしております。



去が不可欠である。

抽出できる。

新港リサイクル株式会社 代表取締役社長 谷口正城 氏

〒983-0001 仙台市宮城野区港1-20-5 TEL. 022-258-5931

従業員165名 創業/1994年8月 資本金/15.500万円

新港リサイクル株式会社は、その社名の 通り、仙台新港の高砂ふ頭近くに位置し、容 器包装プラスチックのリサイクルを中心に、 廃蛍光灯、廃乾電池積替保管等のリサイク ル事業を手がけている。

特に容器包装プラスチックのリサイクルでは、仙台市民100万人が日々分別排出する年間約1万4000トンの"プラスチックご み"を受け入れ、1・ベール化(仙台市委託事



代表取締役社長 谷口正城 氏

1の"ベール化"とは、指定収集袋に詰められ回収されたプラスチック類を、袋を破袋して紙・金属等の"再生不適合物"を除去して、包装などの"フィルム系"、洗剤容器など"ボトル系"に分別、それぞれを圧縮・梱包して、"素材化"する工程だ。効果的なリサイクルのためには、この工程における異物除

業)、2・再生処理、3・最終製品製造という一貫したリサイクルを行っている。

2の再生処理は、1でベール化された素材から、ポリエチレン(PE)とポリプロピレン(PP)系だけの素材を抽出し、"直径1cm、長さ3cmほどの粒状化物(「PE・PP減容品」と呼ばれる)を製造する工程だ。抽出・精製には、強力な選別・洗浄能力をもつ遠心分離選別機が使われている。この遠心分離選別機の強力な遠心力で、水より軽いPE・PP素材と水より重い塩ビ・その他異物を分離することにより、次工程に必要なPE・PP素材を精度良く連続的に

3の再商品化では、2.の工程で製造されたPE・PP減容品から、物流・流通業界を始め多くの業界の荷役には欠かせない両辺110cm・厚さ14cm、耐荷重1トンのパレットが製造されている。ここで生産される再生パレットは石油を原料に製造される「バージン樹脂製パレット」と同等の性能であり、かつ安価で、おまけにCO2も削減される。

以上、3つのリサイクル工程を1つの事業所で実施しているのは、全国でここ新港リサイクルだけだ。

同社のテーマは、「地産地消」「見える化」「地域に根ざしたリサイクル」である。

東北のリサイクル拠点として、ベールからパレットまでの一貫リサイクルを行うことにより環境負荷を低減するとともに、積極的に市民施設見学会を実施するなど、市民意識の更なる向上にも貢献しており、地球環境にやさしい企業といえる。



原料の回収プラごみと、製造されたパレット







富士ゼロックス宮城株式会社 代表取締役社長 惣水敦彦 氏

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル TEL 022-221-2131

従業員292名 創業/1981年9月 資本金/3,000万円

富士ゼロックス宮城(株)は、コピー機やプリンターなどを中心とした、オフィス事務機の総合サプライヤーである。だが、その"素顔"はいま、大きく変容してきている。ドキュメント=文書や情報管理という仕事を通じて、顧客である多業種の企業や団体のソリューション=課題解決を進めることが業務の主力となっているのだ。



世界的にも、CO2の排出削減が喫緊の課 代表取締役社長 惣水敦彦氏

題である現在、富士ゼロックス社の製品は11年連続で省エネ大賞を受賞しており、その環境性能はすこぶる高い。オフィス機器のサプライヤーである以上、技術的により高度でより環境性能のよいモノを供給することはもちろん、文書の電子化と共有化・流通化のソフトウェアの提案を通じて〈地球環境の改善に大きく貢献すること〉をめざしているのだ。

ここで大切なことは、"人の気持ちに応える提案"ができるかどうかであるう。供給される製品の性能がいかによくとも、それを使う人次第でソリューションのコストパフォーマンスは変わってしまう。同社ではそのような「人と組織のあり方」にまで踏み込んだソリューション提案を行っている。

もちろんそうした提案を行うには、自社がまずその手本とならねばならない。そこで富士ゼロックスグループでは、これまで個々に取り組んでいたEMS活動の統一を図り、国が進める"チャレンジ25"に積極的に参加するなど、"Leaf-x"(リーフエックス)といった独自の活動プログラムを構築・運用し先進的な取り組みを行っている。

注目したいのは、その活動プログラムの質と量。職場単位での省エネ活動、グリーン購入はもとより、エコドライブ、ライトダウンキャンペーン、100万人のキャンドルナイト、地域清掃活動や植林イベント等への参加など…全社員が何らかの環境活動に関わり、目標を宣言して家族ぐるみで楽しく取り組むことができる仕組みがあるのだ。また、活動はポイント化され職場単位で集計されて、10ポイント=10円換算でユニセフやWWFなどに寄付されている。個人、職域間の競争意識も高まり、ゲーム感覚で取り組む若手社員も多いという。

一人ひとりが意識と行動を変えることで、未来社会への新しい価値を生みだそう……富士ゼロックスグループと富士ゼロックス宮城(株)の姿勢は、まずその顧客企業に"伝染"し、さらに広がって、閉塞感ただよう世の中に、新しい環境活動の輪を生み出していくことだろう。



地域清掃活動



株式会社ユーメディア 代表取締役社長 今野敦之氏

〒983-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町6-5 TEL. 022-714-8311

従業員130名(平成22年12月現在) 創業/1960年1月 資本金/6,000万

株式会社ユーメディアが「Communication Support & Customer Satisfaction」をビジョンとして、企業CIを行ったのは1990年のこと。以来、同社は印刷メディア、各種広告の制作、イベントの実施、Web制作やシステム構築など、さまざまなメディアを活用し、その業務を通じてお客様との信頼関係を高めてきた。



同社の"メディア力"は、グループ企業の 代表取締役社長 今野敦之氏

プレスアート(せんだいタウン情報S-style、Kappo仙台闊歩等の発行)、コミュニティFM・ラジオ3(ベガルタ仙台の試合の完全中継、地域の「人・企業・お店」を応援するラジオ)ともクロスして、大きなパワーを発揮している。

今年4月に始まった仙台・宮城の「せんだいタウン情報 machico」や、5回目を数えるビール祭り「仙台オクトーバーフェスト」などのイベントの企画実施を行う一方で、本社工場周辺の幼稚園・保育園14カ所に、特製の折り紙や画用紙を配付するといった、多くの地域密着活動も行っている。

環境企業としては、印刷業界の自主基準を達成して"グリーン・プリンティング工場"に認定されている。

また新たに「ハイブリッドUV印刷システム」を導入した。これは、環境に優しいインキを使い、UVランプにより瞬時にインキを乾燥させるシステムで、これまで印刷の際に発生していたVOCをゼロに抑えることができる上、使用電力も4分の1にできる"優れモノ"だ。

さらに印刷用紙にも、森林を健全に守る「森林認証紙」の利用増大の取り組み、ベジタブル・インキを活用するなど、世界的に通用する視点に立つ取り組みを行っている。

かつて、「文字を中心とした表現」で地域社会に貢献し"コンペイさん" と呼ばれ親しまれてきた同社は今、創業50年を経て、その歴史を大切にしつつ、最先端メディアと技術の開発により「コミュニケーション支援企業」として、生き生きとした地域社会の実現に向け"情報価値の創生・提案"を続けている。これからの同社が、どんなに"楽しい・すごい・心うつ" メディアを生み出してくれるのか、期待したい。

